

平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	尾道市立栗原小学校		
学校長氏名	小田原 まゆみ	栄養教諭氏名	浜岡 敏子
職員数	40名	児童・生徒数	582名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

本校は、学校給食単独調理方式（市内統一献立）の実施校である。平成26年度より栄養教諭配置校となり、取組を進めている。組織的な推進体制の確立と共感的人間関係づくりを通して、健康の保持増進に対する主体的な態度を育み、望ましい食習慣の形成を目指して取組を進めている。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

「健康の保持増進につながる食生活の在り方を学び、自らの生活に生かすことのできる子供の育成」

- ◆望ましい食習慣を身につける
- ◆健康と食生活の関わりを理解し、健康を考えた食べ方ができる
- ◆自然の恵みや作る人たちへの感謝の気持ちを持つことができる

（成果指標・目標値） 成果指標；給食の残菜率・目標値；2%以下の日を90%以上

県の成果指標		目標値 (%)
1	主食・主菜・副菜のそろった朝ごはんを食べている児童の割合	66
2	食事の準備や片付けの手伝いをしている児童の割合	78
3	地場産物を知っているか（記入有り）	97
4	郷土料理を知っているか（記入有り）	94

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 児童の主体的な活動を促す意図的・計画的な取組

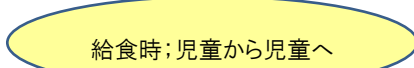
給食時及び教科等における食に関する指導（家庭科）

第5・6学年の家庭科「日常の食事と調理の基礎」の題材の全てを、担任及び専科担当と栄養教諭で指導を行った。

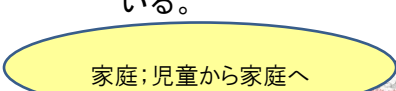
学習では給食を通した学びを結びつけ、調理実習の計画では、班活動による作業手順の計画表作成を通して、家庭での実践に大切な段取り力をつけるための活動も取り入れている。実習後は、家族のために家庭で調理を行うこととしている。家庭で行うことにより、児童は食事作りの大変さに気づいたり、役立つ喜びを感じたりしており、家族のふれあいの場ができることで、家庭の中に「一緒に作ろうね!」「また、作ってね!」といった実践への意欲の高まりにもつながっている。



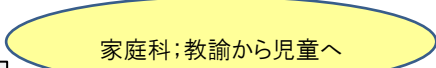
担任と栄養教諭による給食時の食に関する指導



給食時の給食係の活動
「献立の紹介」と「食べ物クイズ」



家庭で実践(ワークシート)
「1 食分の食事を考え、おうちでつくろう」



家庭科学習
「調理実習の計画を立てよう」

【取組 2】(テーマ) 児童の主体的な活動を促す意図的・計画的な取組「異学年交流給食」

異学年交流給食は、食を通して、共感的人間関係づくりや食に対する主体的な活動を促すことをねらいとしている。低学年と高学年のペア学級で一緒に給食を食べる取組で、準備や会食の進行役は、給食委員会（5，6年生）と給食係（各学級）が行っている。高学年は低学年に食事のマナーを教えたり、声をかけて楽しい会食のリード役をしている。低学年は高学年と一緒に食べる楽しさの中で食が進み、好き嫌いのある児童も時間内に食べ終える姿も見られる。さらに、会食後は、高学年のリードと一緒に外遊びをする機会も生まれている。

児童から児童へ



お楽しみクイズをしよう!



一緒に外遊びしよう!

「ひとこと感想」カード児童の感想より

- ・前よりも会話がスムーズに進んで、1年生から積極的に話しかけてきてくれた。楽しかった。
- ・いつもの給食時間より倍楽しかったし、班のみんなと仲良くなれてよかった。一緒に食べておいしかった。

班のみんなの感想を出し合おう!



【取組 3】(テーマ) 食育への関心を高める家庭との連携「給食試食会・給食参観・懇談会」

「給食試食会・給食参観」は、家庭における学校給食への理解を図るため、年2回、全学年の保護者を対象に行っている。給食の試食・給食時間の参観・懇談会の流れで行い、懇談会では栄養教諭が学校給食と食育の取組を説明した後、今年度は保護者同士の意見交流の場(グループ)を設けた。我が家の食事の有り様を交流できたことは保護者に好評で、給食調理や給食指導の実際を知り、家庭の食育の大切さを改めて実感する場となった。



懇談会の様子

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

(1) 職員研修の実施

- ・ねらいや方法の確認及び調理実習を行い、感想を出し合った。

(2) 家庭への情報発信

- ・県教委や市教委からの配布物及び食育だよりを家庭に配布した。

(3) 家庭・地域への働きかけ

- ・栗原小PTAバザーにおいて、試食の提供とレシピを配布した。

(4) 「おうちで作って食べよう!」の呼びかけ

- ・給食委員会で学級ごとの食数調査を行い全校に呼びかけた。



学級掲示



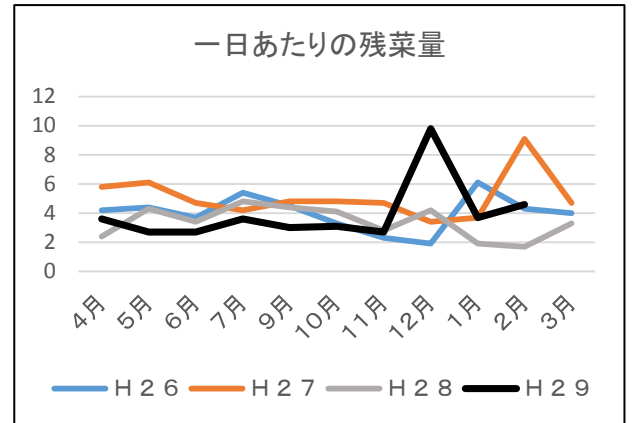
栗原小バザーでの試食コーナー

5 取組に対する成果と課題

【成果】

(1) 給食を大切にする校内の雰囲気づくり

平成 26～29 年度の月別の一日当たりの残菜量は、この 4 年間に於いて減少傾向にある。給食時間の給食係（各学級）の活動をもとに担任が統一感のある給食指導を行うと共に、給食委員が毎月行う「給食調べ（残菜及び給食のきまりについて）」での呼びかけなど、教諭から児童へ、児童から児童へと日頃の取組が定着しつつあり、落ち着いた給食時間の過ごし方につながっている。



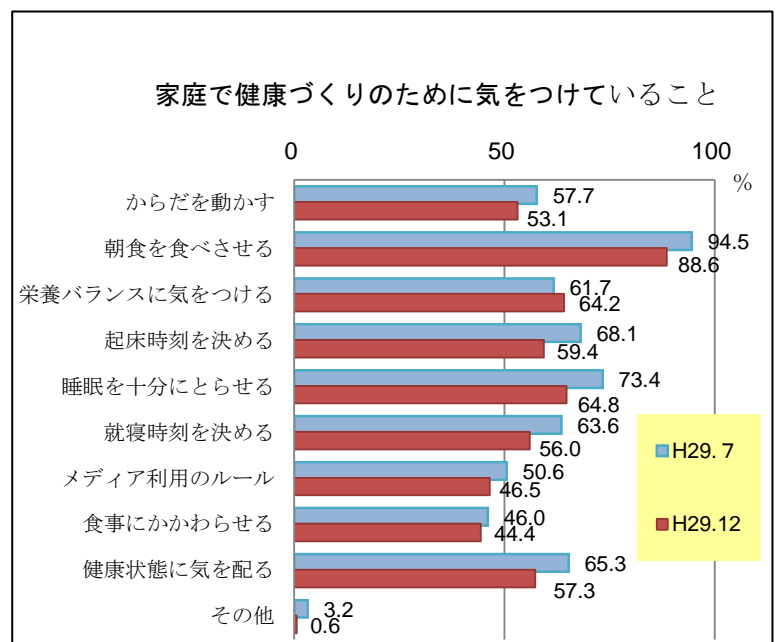
(2) 児童の望ましい食習慣の育成

食習慣の形成については、給食時や教科等における食に関する指導により県の重点目標の項目において数値の改善がみられた。

県の成果指標		H 2 9 目標値 (%)	本校 (5年対象)	
			第 1 回目	第 2 回目
1	主食・主菜・副菜のそろった朝ごはんを食べている児童の割合	66	53	65
2	食事の準備や片付けの手伝いをしている児童の割合	78	73	80
3	地場産物を知っているか (記入有り)	97	92	97
4	郷土料理を知っているか (記入有り)	94	38	88

(3) 家庭における健康づくり

家庭の食に対する意識については、「家庭での健康づくりに関する調査 (7月・12月実施) における「家庭で健康づくりのために気をつけていること」についての回答の結果、「栄養バランスに気をつける」のポイントが今年度より7月から12月で2.5ポイント上昇している。今年度より「食事にかかわらせる」の項目を新たな選択肢として設けることにより、健康づくりと食に主体的にかかわる態度を育むことの大切さを問い、意識としての実態を知ることができた。



【課題】

- (1) 校内における食育推進体制の更なる充実
- (2) 児童の望ましい食習慣を身に付けるための主体的な活動を促す取組の定着
- (3) 家庭における実践力の向上に繋がる取組の実施

6 今後の取組に向けた改善方策について

- (1) 担任による給食時の食に関する指導内容を検討する。
- (2) 生活習慣の定着を目指した取組の目標に食に関する項目を取り入れる。